



復興は道路や住宅地が優先され農地は後回しになっている。

農青連、陸前高田へ 被災地 で感じた

農青連副委員長 石田 智久

7月25日～27日、三ヶ日町農青連から6名が、JA静岡青壮年連盟主催の「東日本大震災」JAグループ支援隊」に参加。陸前高田市の水田に入った。

人の力では厳しい、継続して支援する体制が必要

作業場の水田の水路にはメートルもの厚さの泥やヘドロが堆積していました。持参したスコップやジョレンで取り除きますが、中に混ざった家庭用品や建物のサッシ枠、外壁等の瓦礫が作業の邪魔をします。作業は思い通りには進まず、半日で片付いたのは僅か数メートル。建物が少ない水



この体験で感じた事を、より多くの人に伝えたいです。そして、いつ東海地震が来てもおかしくないと言われている中で、他人事とは思わず、自分達の事もしっかり考えていかなければいけないと思います。

他人事ではないから

作業終了後、宿泊場所に戻る前に陸前高田の沿岸部から大船渡市内を回りました。沿岸部の震災での被害状況はニュースで見ても、ひどい状態だと感じていましたが、実際に現場に行き、目で見たことで、改めて復興への大変さ、津波の恐ろしさ（自然災害）を痛感し、愕然としました。

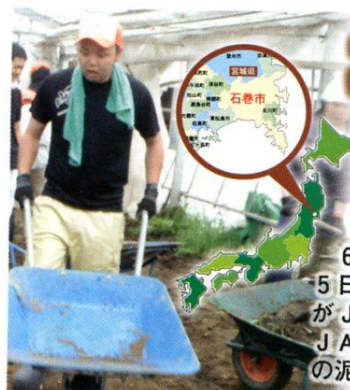


三ヶ日から600kmの旅路、バスの座席で14時間揺られて到着した。

田地帯で、市街地に比べ瓦礫が少ない場所でしたが、ビニールハウスや家屋の残骸が積み上げられ、瓦礫の山があらゆるこちらにみられました。人の力だけでは、たいした作業もできずこうした時に重機を使って三ヶ日の力を発揮できればと思いました。また、こうした活動も含め、継続して支援していく組織作りが必要だと感じています。

被災地 から日常へ 持ち帰った

6月27日から7月1日までの5日間、JAみっかび職員5名がJAグループ支援隊に参加。JA石巻管内のトマトハウス内の泥撤去作業に従事した。



何から手をつけていいかわからない、でも小さくても出来る事がある

清水 智幸

石巻から帰ってきて、自然と物を粗末にしなくなりました。小さい事だけで。

震災間もなく、ボランティアに出かけていった知り合いを見て、自分も何かしなくちゃいけない...でも踏み出せず、元々ラムラした気持ちがありました。もし、行ける環境なら行ったほうが良い。でも、ここにも出来る事はあります。

自然の力、復興の人間の力
どつちも凄い

井口 佑輔

私は農機の整備士です。被災地では機械の修理はかなり困難だったと聞きました。伝えることがあるとすれば、例えば発電機。燃料を入れっぱなしにせず定期的に動かし、使える状態にしておいて下さい。

ひしゃげた建造物を見て、ここに加えられたとてつもない自然の力に驚きましたが、同時に、各地から集結した重機が働いている復興の力に驚かされました。

実際に行ける場所で、実際にあった事実を、自分の目で直接見る

成澤 和久

「これが、ここでも実際に起こりうる。」地震に対する意識が芽生えたいと思います。

何か手助けがしたい気持ちも、もちろんありました。ただ、「実際に起こった事をこの目で見てみたい」という事がボランティア参加の背中を押しました。起こる起こるとい言われている東海大地震、実際に起こった東日本大震災。どちらも、心の中で風化させず活かさないでほしいと思います。

